



本会議 質問

大增税で苦しんでいる 介護認定者に障害者控除証明書を



松山市や高知市のように 温かい市政で減税を

「学童保育」「音楽芸術ホールと再開発」と、九月本会議で質問した事項をシリーズでお伝えしてきましたが、シリーズ最後の今号は「介護認定者に障害者控除証明書を」です。

大增税が市民の暮らしを直撃し、大変な状況になっていますが、とりわけ高齢者は大增税に加え、介護保険料、国保料の値上げが連動し、過酷な状況が強いられています。そんな中、松山市や高知市をはじめ全国各地の自治体では、高齢者への負担を少しでも軽くしようと、介護認定を受けている方へ障害者控除証明書を発行し喜ばれています。私は本会議で「徳島市でも証明書を発行し、減税する温かい市政を」強く求めました。

松山市では

介護認定された市民に 障害者控除証明書発行

松山市では要支援から要介護3までの市民に普通障害者控除の証明書、要介護4と5の市民に特別障害者控除の証明書を発行しています。

市が全市民に

発行している『広報まつやま』には「介護認定を受けている人の障害者控除について」という見出しで



「六十五歳以上で、介護保険の要支援、または要介護1から5の認定を受けている人は、障害者手帳を持っていなくても障害者に準ずる者として、所得税の確定申告や市県民税の申告の際に障害者控除の対象になります。控除を受ける際には、福祉事務所長が発行する障害者控除認定書(証明書)が必要となりますので、お早めに申請してください」と書いて広報しています。



高知市でも要介護1と2の市民に普通障害者控除の証明書、要介護3から5の市民に特別障害者控除の証明書を発行しています。

証明書が発行されると

四万円〜五万五千元 税金が安くなる

松山市や高知市のように証明書が発行されると、普通障害者控除で住民税と所得税を合わせて四万円ほど、特別障害者控除で住民税と所得税を合わせて五万五千元ほど税金が安くなり、大增税で苦しんでいる市民の負担が大幅に軽減されます。



徳島市では

厳しい条件で申請がゼロ

ところが、徳島市では「(一番重度の)介護度5だけに証明書」と厳しく線引きした上に、「医師の診



断書をもらわないと、認定書を発行しない』とされています。診断書を発行してもらうためには、医者のお窓口で五千円も支払わなければなりません。だから、徳島市では申請する人がゼロという冷酷な行政です。

私は本会議で「この認定書は、高齢者の中でも特に



弱い立場にある介護認定者に対するもの。大増税で苦しんでいる市民の方々を救済する温かい気持ちがあれば、松山市や高知市のように認定書が発行できる。徳島市でも即刻実施を」と強く要望しました。



視察した松山市では

認定書発行で市役所が尽力

同じ四国の県庁所在都市で、しかも税務署は同じ高松国税局（税務署を統括するところ）管内なのに、松山市、高知市と徳島市とは、証明書の発行に、なぜこんな「差」があるのか：松山市を視察して納得しました。

視察した松山市では、市役所の担当課が証明書を発行するために力を尽くしていましたが、徳島市の尽力は皆無に等しい状態：「差」の要因です。

松山市

介護度別に無作為抽出し検証

他都市の実施状況を把握

視察に訪れた際、松山市が介護認定者に障害者控除の証明書を交付するようになった経緯が記されたもの

をいただいきました。

その中味を要約しますと、『国から出された通知は、障害者控除の認定は市町村長



等の事務で、障害者手帳を有している者と、有していない者に、不公平が生じないようにとしている。だから松山市の判断で、介護認定者に障害者控除の認定書を交付する』と明快に述べています。

この立場で、松山市は力を尽くしているんですが、まず、手帳を持っている障害者と、介護認定者の（障害）状態を比較するため、要介護認定者を介護度別に千例、無作為抽出し検証しています。

もう一つ松山市は、他の類似都市などの実施状況を調査しています。こうした取り組みを経て、証明書を



発行しています。

同じ高松国税局管内やる気さえあれば徳島市でも即実施できる

この証明書は税務署（市民税課）へ提出するもの。松山市と同じ高松国税局管内である徳島市の証明書は『松山市と同等』が常識で、やる気さえあれば即実施できるものです。

私は本会議で「松山市と同等の証明書発行に尽力せよ」と強く求めました。



ホットひといき

私の活動を、地域のみならず定期的にんに定期的にお伝えしているのは、この『ホットニュース』（二週間に一度、二千部発行）と『市議会だより』（議会の後、年四回、一万五千部発行）の他、4年半程ほぼ毎日書いている『加戸悟ホームページのホットコーナー』があります。インターネットを使われている方はヤフーなどで、『加戸悟』を検索していただく出てきますので、ぜひご覧下さい。

ニュースやインターネットに加え、最近、宣伝カーでの街頭宣伝を、古田県議等と一緒に始め、私の活動をお伝えしています。行く先々で温かい応援をたくさんいただき、元気づけられています。

『ホットニュース』も今号で四十二号目。発行し始めて二年になりました。これからも「続けることが一番」の思いでがんばりますので、よろしくお願ひします。

